

記録から言えること 言えないこと ⑤

小5～小6／自分で文を書く(必ず言える文・決まらない文)

なまえ _____

ひづけ _____

校長室の先生のつくえに、賞状がとどけられていました。とどけたのは、下の4人のうち1人です。

記録から、「必ず言える文」と「決まらない文」を1つずつ自分で書こう。

必ず言える文には、決め手の記録の番号を全部書く。

決まらない文には、成り立つ場合と成り立たない場合を書く。

記録の時間は、ずっとその場所にいた。記録のない時間は分からない。

歩く時間は行きも帰りも同じ。歩く時間より早くは移動できない。

記録 この話は、10時00分から10時45分までのことです。

①先生が10時08分に見たとき、つくえに賞状はなかった。

②先生が10時23分に見たとき、つくえに賞状があった。

③ミサキさんは、10時16分から10時22分まで音楽室にいた(音楽の先生が見ていた)。

④ゴウさんは、10時06分から10時16分まで理科室にいた(理科の先生が見ていた)。

⑤カエデさんは、10時02分から10時25分まで図書室にいた(司書の先生が見ていた)。

⑥ユウタさんは、10時07分から10時21分まで体育館にいた(体育の先生が見ていた)。

歩く時間 音楽室⇄校長室 3分 理科室⇄校長室 3分 図書室⇄校長室 3分 体育館⇄校長室 5分

時間の図(10時台) かいて考えてもよい(太い線=いた時間、点線=歩く時間)

先生が見た時間



文の形(どれを使ってもよい)

・〇〇さんは、とどけることができなかった。

・とどけた人が置いたのは、〇時〇分より後(前)だ。

・とどけたのは、〇〇さんだ。

・〇〇さんがとどけたのなら、来たのは〇時〇分より後(前)だ。

○ 必ず言える文を1つ書こう

決め手の記録(全部)

△ 決まらない文を1つ書こう (場合は「〇〇さんが〇時〇分にとどけたら」のように、だれがいつかを書く)

成り立つ場合

成り立たない場合

